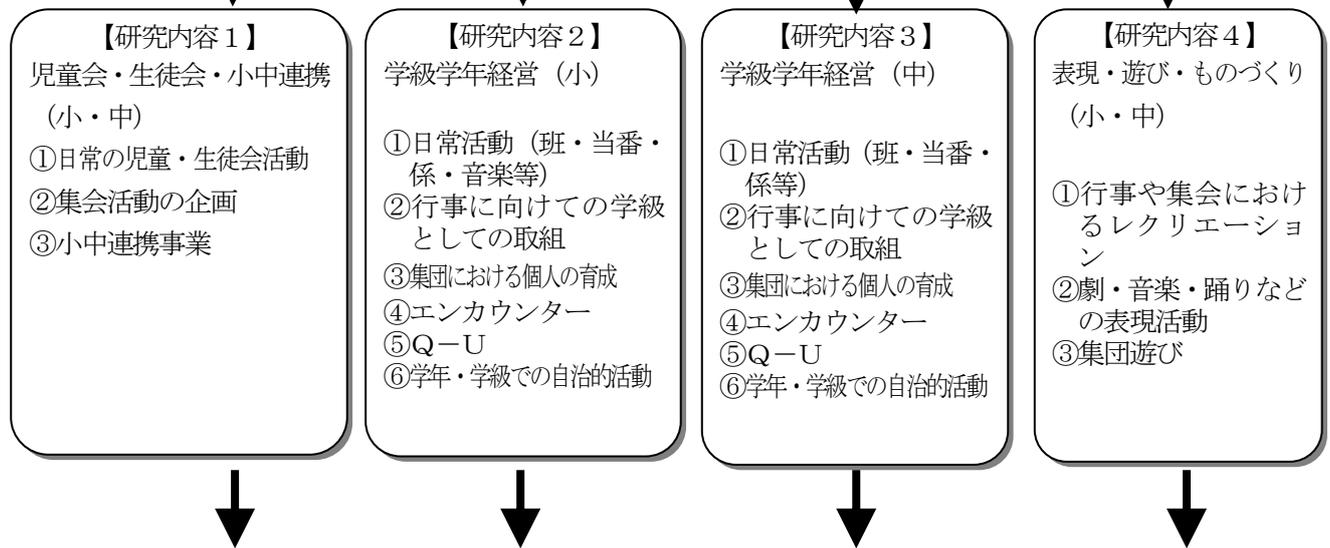


集団づくり部会

I. 研究の概要

1. 研究課題：集団も個人も向上していくために、どのような工夫が考えられるか～コロナ過で失った力を取り戻せ～

2. 研究内容



3. 研究方法

(1) 交流計画

研究内容についての実践例・失敗談などを交流し、「集団も個人も向上していくために、どのような工夫が考えられるか」についての研修を深める。

(2) 分科会構成

2) 分科会構成

第1分科会	児童会・生徒会・小中連携 (小・中) <研究キーワード> 日常の児童・生徒会活動、集会活動の企画、小中連携事業
第2分科会	学級学年経営 (小) <研究キーワード> 日常活動、行事における学級としての取り組み、集団における個人の育成、エンカウンター、Q-U、学年・学級での自治的活動
第3分科会	学級学年経営 (中) <研究キーワード> 日常活動、行事における学級としての取り組み、集団における個人の育成、エンカウンター、Q-U、学年・学級での自治的活動
第4分科会	表現・遊び・ものづくり (小・中)

II. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過

(1) 部会役員研修会による研究経過

- 5月 9日 第1回部会役員研修会
令和4年度の部会研究の進め方
- 5月24日 第2回部会役員研修会
研究計画の概要の確認
- 7月12日 第3回部会役員研修会
今年度の研究課題の交流方法について
- 7月27日 臨時部会役員研修会
課題部会研究協議会放送機器研修
- 8月 5日 臨時部会役員研修会
課題部会研究協議会放送機器研修
- 8月19日 臨時部会役員研修会
今年度の研究課題の交流方法について
- 9月16日 第4回部会役員研修会
研究協議会の反省・総括
- 12月16日 第5回部会役員研修会
次年度研究計画について

(2) 部会役員研修会での研究成果

- ・コロナ状況下で、どう研究を進めていくかを検討した。
- ・レポートの回収方法、アンケートの実施方法を検討した。
- ・今年度の経験を踏まえ、来年度以降の分科会運営の在り方について検討した。
- ・分科会を Google meet を利用した開催方法を検討した。

2. 課題部会研究協議会での交流・協議

<p>【第1分科会】 ～児童会・生徒会・小中連携(小・中)～</p>	<p>① 小集団でのレポート・実践交流</p> <p>Google meet を利用し、各先生たちからレポート内容の交流を行った。人数が多い場合は、ブレイクアウトセッションを行い少人数での交流を行った。</p> <p>○江別太 山田教諭 <児童活動と集会活動について></p> <ul style="list-style-type: none">・児童会の代替わりにテーマを決め、それを軸に活動している・あいさつ運動→この取り組み力を入れている。マスクをしていても明るい笑顔・低学年の児童には目線を合わせて行うようにしている。・なかよし集会→学年縦割りで行われている。コロナのレベルによって弾力的に運営している。集会の意義を考え、できる限り行う方向で職員で検討した。・平和集会→「いじめ・平和・命」のテーマを隔年で行われている。今自分ができることは何かを考えさせている。
-----------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【第2分科会】
～学級学年経営（小）～

○花川北中学校 細谷教諭

- ・特色ある活動 → 「LED活動」。いじめ根絶に向けて生徒が主体的に取り組んでいる。内容は生徒会が考えたいじめアンケートを作成し、全校生徒で実施している。代表委員会を動かして、学級の課題解決に迫る学級会を2時間もちで行っている。道徳に近い「再現化」を取り入れ、生徒の意見をパワーポイントにまとめ発表している。
- ・各種行事 → コロナ禍の関係でYouTubeの限定配信を活用して行事を取り組みを発信している。

○児童会、生徒会活動について

対外的な活動は行っていない。青葉中は対外に行っていた活動を校内向けに行っている。
あいさつを呼びかけるような大声を出すことになる活動も控えている。
そのほかの活動は、規模を縮小しながらも、以前の姿を取り戻しつつある。

② 成果と課題

コロナ過での制限があるなかでの実践交流が行われた。特に各校、全校集会等に行えない実態であり、どの学校も工夫をして集会などを行ってはいるが、なかなか理想とする活動が行うことができていない。他学年や上級学校の取組を見る機会が増えてくれば生徒たちも「目指すべき姿」として提示でき小中連携の活動にも弾みがつくかもしれない。

① 小集団でのレポート・実践交流

Google meet を利用し、各先生たちからレポート内容の交流を行った。人数が多い場合は、ブレイクアウトセッションを行い少人数での交流を行った。様々な実践が交流され、今度の指導に生かしていきたいなど前向きな意見が多かった。

○花川南小（工藤教諭・赤井教諭・山谷教諭）

3年生、4年生。児童が主体的に活動する運動会にしてきた。その後も、リーダー・副リーダーを中心に行事や体育等の活動を進めている。学級閉鎖 中も、他クラスの運動会練習動画をチームズで共有。今後の練習についてオンラインで話し合い活動ができた。

○南線小

『ええだま貯金』、『ほめほめタイム』、『係活動のチェック方法』、『ボードゲーム』という学級での集団づくりの実践報告をした。また、リーダーを立てて、児童が中心となり様々な活動を進めることで集団としての力の高まりが見られた。

また、小原先生には、各月で具体的な目標を立て、その実現のためにどのような手立てを講じるかについて報告をしていただいた。

○千歳市立祝梅小学校 金澤教諭より

学級の hyper-QU 結果を詳しく分析。
非承認群の児童への今後の指導について。自己肯定感が高まるような声掛け、集団とのつながりを強められるようにしていきたい。
保護者との連絡を密にして、子どもの課題や様子を共有していく。
クラスの子たちのために頑張っていることを、ささいなことでもほめていきたい。

○千歳市立柏小学校 横田教諭より

班 …班長・副班長でリーダー性を高めている。
当番活動…週替わりで掃除・給食当番を行う。同じメンバーで1年間。子ども同士でいないメンバーを確認したり、声を掛け合ったりと、協力しやすくなっている。
係 …責任感をもって取り組んでいる児童が多い。

② 成果と課題

コロナ過により、異学年交流などの今までできていたはずの活動ができなくなり、上級学年としての自覚などを感じさせることが難しくなってきた。

【第3分科会】
～学級学年経営（中）～

た。しかし、その中でも係活動や当番活動などの日常的な活動を充実させ、子どもたちの成長の場を確保している。また、このような状況でもできる実践交流し、今後の指導へのヒントを得ることができた。

① 小集団でのレポート・実践交流

Google meet を利用し、各先生たちからレポート内容の交流を行った。人数が多い場合は、ブレイクアウトセッションを行い少人数での交流を行ったどのグループも活発な話し合いが進められ、時間が足りないと感じるほどだった。各学校で取り組んでいる実践、学級や学年での取り組みなど参考にしたいものが多かった。

○樽川中 高橋教諭、吉本教諭

- ・傾聴の姿勢をととても大事にしている。学年で引っ張っていけるように共有と家庭での連携をしている
- ・感情によりそった生徒指導を心がけている。頭ごなしに指導していた過去を改善し、傾聴する時、子どもの感情に着目したい。「めんどくさい」⇒一歩踏みとどまって「どうしてめんどくさいの？」と尋ねる⇒一度、共感することが大事。

○大麻東中 平井教諭

- ・班づくりについてレポート発表 班編成の特徴と班長副班長の1日の動きについて。班編成のタイミングは、5週間に1回当番活動が一周ととしている。班長会議は昼休みに行っており、放課後の活動に支障がないようにしている。

○千歳中 國塚教諭

- ・代議員会でGoogle スライドを活用した活動
⇒生徒が自由に作って責任感が生まれた
- ・1年間の抱負を自分たちで作らせた
⇒最高学年としての自覚 自治意識の高まり
- ・壁新聞 指導が大変 ⇒ 変わる何かいいものがないか？

○東部中 中島教諭 会田教諭

- ・友達の良いところを手紙に書く
- ・自分を振り返る日記を書く
⇒自分と他者を知ることができる
- ・「消し消し」「クエスト」～名前を工夫して、とっつきやすく

② 成果と課題

やりたいこと、やらせたいことはいろいろあるが、放課後の時間や学活等の時間とのやりくりが課題である。今年度はChrombookを活用した実践も多かった。例年、似たようなテーマでの交流ではあるが、年に1度集まって交流することはやはり刺激になり、有効である。参加者の皆さんは、とても活発に交流していた。

【第4分科会】
～表現・遊び・ものづくり
(小・中)～

① 小集団でのレポート・実践交流

Google meet を利用し、各先生たちからレポート内容の交流を行った。ブレイクアウトセッションを行い少人数での交流を行ったどのグループも活発な話し合いが進められた。コロナ過で制限が多いが、その中でも楽しく学校生活を送れるように各先生たちの工夫が感じられた。

○西の里小 たけのこニュッキなど 欠席者でも参加できるオンラインでもできるゲーム 他

○恵み野旭小 机上でできるあそび 海賊たいじだGO! 他

○北栄小 異学年交流 上級生が司会や企画をして楽しむ

○北陽小 迎教諭

「魚・鳥・木」の説明

- ・カウントははやめにする。
- ・木なら、花も加えていい。
- ※実際に、8人で「魚・鳥・木」行った。

○高台小 田中教諭

「織姫を探せ！」…借り人競争のようなレク。お題は「フラフープに二

	<p>人一緒に入ってゴールを目指す」や「低学年の子（織姫役）をスクーターボードに乗せて、高学年（彦星役）が引っ張る。」など。高学年が低学年をリードする形で活躍できる活動。</p> <p>「ポッチャ」…大人気。</p> <p>「夏休み明けビンゴ」の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みだけでなく、冬休み、春休み明けでも使える。 <p>「宝取り鬼」の説明</p> <p>○千歳日の出小</p> <p>Jamboard の使ったしりとりの方と課題</p> <p>○東野幌小学校 横山教諭 『いろいろな鬼ごっこ』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生でもみんなで楽しめる、鬼ごっこを紹介。 ・「納豆鬼」は、タッチされた後、頭の上で10回かきまぜたら復活できる。 <p>○大麻西小学校 長谷川教諭 『紙コップロケット』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に作ったもので、作り方や飛ばし方を紹介。 ・的を狙ったりすると盛り上がる。飾りを付け過ぎるとうまく飛ばない。 <p>○中央小学校 濱田教諭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループをいくつかに分けてお題に対してワードを考える ・ワードウルフ 人狼ゲームみたいなもの。自分だけ違うものを話している。 ・風船を使ったリフティング <p>○中央小学校 菅原教諭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひっくり返し ダンボールを丸く切って 一斉にめくりあう。学年、学級レクでも利用できるのでは。欠点として作るのは大変。ものがかさばる。 <p>○大麻小</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私は誰でしょう」「行き先クイズ」「アンケートランキング」 ・バスレクで盛り上がるゲーム <p>○野幌若葉小</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もの作り（コマ・シュート棒）」「ヒット&ブロー」 ・自分で作って遊べるもの作りやはまる子ははまる推理数ゲーム <p>②成果と課題</p> <p>コロナ禍でこれまで通りの教育活動を行えない状況になり、子どもたちは、楽しいはずの学校生活は我慢我慢の生活へと変容した。その中でもどの先生も本来であれば楽しく触れ合えるはずの学校生活を、少しでも感じてもらえるようにと思い、様々な工夫をされていた。それぞれの学校で行われている、レクや遊び、仲間とのつながりを意識した実践内容の交流を行った。貴重な話を聞くことができるとても有意義な時間になった。</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Ⅲ. 講演会（実技・理論研修会）

【北ブロック】「すべての子が生き生きと過ごせる学級経営、集団づくりをめざして」

講師：大野 睦仁氏（札幌市立平岡中央小学校）

① 講演会の様子

エピソードを交えながら、集団作りを大切にする3つの理由を中心に学んだ。また、安心して合える集団をつくることや、心理的安心な状態を作りためには子どもたちが理解し合うことが大切であることを深く理解することができた。そのような集団の作るための具体的なアプローチの仕方も説明していただき、すぐに実践していける内容であった。

② 成果と課題

具体的でわかりやすい講演だったため、部会員からは「ぜひ実践していきたい」などの声が聞かれた。また、「中学校でも1年生の時や、2年生のクラス



替えの時に活用できる」など前向きな声が多かった。

一方で、「あらゆる活動で、感染症対策について考えるようになりました。正直やりたいことはやれていません。」などの今のコロナ過での実践の難しさを感じている声も多く意見として挙がっていた。

【南ブロック】「学びのユニバーサルデザイン」の考え方を取り入れた学級経営

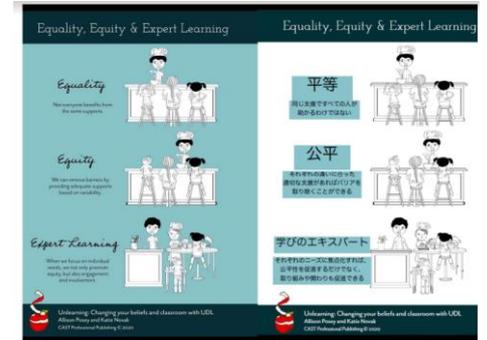
講師：山田 洋一 氏（恵庭市立和光小学校 日本学級経営学会理事）

① 講演会の様子

どの子どもたちにとってもみんなが平等に学べる環境を作っていくことの大切さを学んだ。また、学習者は、子ども自身であり、自分に合った学びのツールを選ぶことができ、私たち指導者は子供のニーズに合ったサポートを提供していく必要があるということを理解していくことができた。具体的に学びの授業の中や、教室環境におけるユニバーサルデザインを説明していただき、実践していける内容であった。

② 成果と課題

教師が陥りがちな思考についても、説明していただき、改めて子どもファーストであることの大切さを感じることができていた。また、Google for educationに活用なども紹介していただき多変参考になった。また、「講演会の山田先生の話が、とても教育の現状に合っていて、参考になりました」という感想もいただき非常に有意義な時間になった。



IV. 部会研究の成果と課題

1. 成果

- 研究内容やレポートの書式などを部会便りで提示し、部会員への周知に務め、レポートや実践をもとに活発に意見を交換することができた。
- 講演会の内容が現在の教育に非常にリンクしており、非常に勉強になった。
- 初めてリモートでの分科会を行ったが、ブレイクアウトセッションなどを用いることで大変有意義な分科会運営をすることができた。
- オンライン開催により移動時間などを削減することができ、参加者にとって無理のない体制をとることができた。
- よりよい集団づくりに向けて、発達段階に応じ、教師主体から児童・生徒が主体となって活動していけるような指導方法の工夫が必要であるという共通理解が得られた。
- コロナ禍における悩みを様々な学校や校種で共有することができ、解決に向けての手立てを考察することができた。

2. 課題

- リモートで行うにあたって、3時間の長時間では機材のトラブルなど難しい部分があった。
- まだまだコロナウィルスの影響があり、子どもたちも教師たちも悩みを抱えていた
- オンラインでの参加に肯定的な意見もあったが、集合形式の良さを感じる部分もあり今後の課題部会の運営方法の検討が必要である。

（文責 長谷川 遼太）